研究室紹介

高橋憲雄研究室　A714（人間文化コース）

ラテン語と倫理学の授業で有名な高橋先生の研究室にお伺いしました。先生の研究室はプラトンとソクラテスの香りに溢れていました。

右が高橋先生

■先生の研究内容を教えて下さい

古代ギリシアの巨大な知恵を現代に蘇らせるというのがわたくしの哲学の基本的な課題です。今は特に「対話」ということを主題的に研究しています。神の語り掛けに，また人間の語り掛けにどうしたら応答しうるのか，人間が世界のどこに位置し，どうしたら人と人とが宥和しうるのか，そんなことを小さな頭で考えています。その関連でヘブライ語を始め，旧約聖書における神と人間との間の問と応答の問題について考えています。「お前はどこにいるのか」と問われたら，「ここにいます」(ヒネニ)と答えられるようになりたい，それが私の希求する真理のすべてです。

■研究室のPRをお願いします。

（高橋先生）性格が歪んでいるので正常な学生に（教官にも）全く慕われませんし，またそうした学生の相手もできません。事実，学生の卒論指導教官になったことはかつて一度もありません。でもちょっとおかしくなったさまよえる精神がいたら，逃げ込んで来て下さい。可能性に満ちた若く美しい魂を目にするときだけ，「エティ・ビオートス・フートス・ホ・ビオス」（まだこの生は生きるに値する）などとつぶやいています。

（ゼミ生）ひたすらテキストにかじりついて一字一句読んでいます…。

■研究室の学生に一言お願いします

勉強ばかりしていないように。本当の意味で人をいつくしむことができるように。

★研究室の学生一人一人から先生に一言お願いします。

勇気と臆病と節度と無抑制と正義と不正（？）と知と無知と…古代ギリシアの徳と悪徳を一身に兼ね備えたすてきな方です。

●ゼミ生各人の研究内容を教えて下さい。

プラトンの作品を読んでいます。善について，知への愛について，徳について…

★総科生に一言お願いします

（高橋先生）わたくしのような人間＝自閉症的・自虐的・人間嫌い（ミーサントローポス）・言論嫌い（ミーソロゴス）＝にだけはならないように。

（ゼミ生）目いっぱいわがままに好きなことができれば…。

奥村和久研究室　A714（社会科学コース）

李先生との共同ゼミの時間にお伺いしました。ゼミでは韓国経済を始めとするアジア経済に関する本を読み，熱心に討議していました。

左から4人目が奥村先生

■先生の研究内容を教えて下さい。

①高度成長終えん後の各画期における日本の貿易構造の型とその変遷の検出　②日米独仏の貿易構造の比較

◆どうしてこのテーマに取り組んだのですか。

①世界経済の中に占める日本経済の位置付けが知りたかった。②それに合わせて世界経済の中でプレゼンスを増した日本経済の問題点（成功とその代償）が知りたかった。

■研究室のＰＲをお願いします。

（奥村先生）４回生１名と３回生２名，そして他学部学生等３名の出席の下で隔週でアジアＮＩＥＳ・ＡＳＥＡＮに関する文献の購読中。又，隔週で李ゼミと合同で韓国経済に関する文献を購読。

（ゼミ生）先生と私たちはとてもマイペースでいいコンビです。研究室ではいつも新鮮なジュースをたっぷり飲むことができます。気軽な雰囲気が売りなので，知識は問いません。ちなみに私たちはバカです。

■研究室の学生に一言お願いします。

毎年，常識に富みコツコツ勉強する学生か，全くその軌道を外れた学生かの両極がゼミに入り，あまりその中間形態はいないようです。今年のゼミ生はどちらかな？

★研究室の学生一人一人から先生に一言お願いします。

たばこは控えめに。（砂田）

ジュースの開封後はお早めに。（岡部）

●ゼミ生各人の研究内容を教えて下さい。

韓国か台湾の経済について（砂田）

はっきりとは決まっていないが，アジアの経済について（岡部）

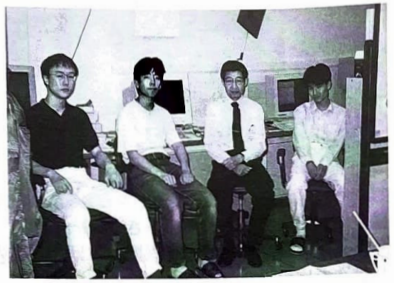
★総科生に一言お願いします。

（奥村先生）いろいろなタイプの学生がいますが，自分らしく生きるのが一番。

（ゼミ生）みんな仲良くネ。

山縣敬一研究室　C614（数理情報科学コース）

コンピュータ・プログラミングでお世話になった人も多い山縣先生をお伺いしました。先生の研究室はコンピューターとそれに関わる書物に溢れ，いかにも数理情報科学コースという雰囲気でした。



右から２人目が山縣先生

■先生の研究内容を教えて下さい。

①制約充足システムと設計問題の解法
②並行プロセス系のモデルと協調型計算

■研究室の PR をお願いします。

「コンピュータの並の使い方で満足できない人たちが集まって研究しています。」
「ゲームの解析も研究しています（^^;;）。」
「なごやかな雰囲気の研究室です。」

■研究室の学生に一言お願いします。

何事にも興味を持ってアクティブな生活を送ること。
コンピュータに関する新しい知識を指導教官に教えること。
自分の研究には自分の特色を出すこと。

★研究室の学生一人一人から先生に一言お願いします。

「とても人当たりのよい先生で，学生に自由な研究をさせてくれます。」
「大変やさしく，親しみやすい先生です。勉強のこと以外でも気軽に話せる先生です。」

●ゼミ生各人の研究内容を教えて下さい。

幾何・制約充足問題の効率的な解法
ゲーム

★総科生に一言お願いします。

「本当に自分の好きなことをして下さい。そして，総科の付き合いも，その枠を超えた付き合いも大事にして下さい。」
「パソコンに前向きになりましょう。」
「４年の時に余裕をもてるように，単位をはやめにそろえておきましょう。」

田村剛三郎研究室　B203（物質生命科学コース）

前列左が田村先生

■先生の研究内容を教えて下さい

日頃見なれてる物質も，極端に高い圧力や温度の下では思いがけない姿を現します。普通の条件下では半導体であるものが金属になったり，逆に金属が絶縁体になったり，バラエティーに富む変化がみられます。私たちの研究室では，物質の性質が大きく変わるとき，原子配列や電子の振舞いにどのような変化が現れるかを実験的に研究しています。

●各人の研究内容を教えて下さい

高温・高圧下でのエネルギー分散型Ｘ線回折測定及びＸ線小角散乱測定による超臨界流体の構造に関する実験的研究

■研究室のＰＲをお願いします

（田村先生）メンバーは，一昨年春総科に来られた助教授の乾雅祝先生を含めて６人で，少数精鋭（？），皆楽しく（？）研究テーマに取り組んでいます。
（ゼミ生）田村研究室には，フレンドリーなスタッフ，たよりになる先輩達がいて，自由な雰囲気の中で研究することができます。一人一人が研究熱心で，いろいろなことを教わっています。
外国からのお客さんが多く，いろいろな文化をかいま見ることができます。Do it yourself な研究室なので，時間が掛かったりしますが，多くの事を身に付けることが出来ると思います。

■研究室の学生に一言お願いします

オリジナリティーを第一とし，世界に冠たる研究成果をあげ，世界にはばたいてもらいたいと思います。

★研究室の学生から先生に一言お願いします

我々の実験では常に新しい結果が得られ，それについて思考をめぐらすのは学生にも可能です。それほどメジャーな分野ではないですが，知的好奇心をかきたてられることまちがいないでしょう。
田村先生は，見た目通り，とても温和で，大きい声を出されたところなど，見たことがありません。でも，研究に対しては非常に熱心で，それに対し労を惜しまないエネルギッシュな行動力には，感動しています。

★総科生に一言お願いします

（田村先生）総合科学部はさまざまな専門分野の先生がおられ，互いの交流が盛んなユニークな学部です。私自身は物理の出身ですが専門分野を超えた広い立場で研究教育ができるよう努力しています。総合科学部の教官を大いに利用して下さい。
（ゼミ生）物質生命科学コースというと難しいことをやっていると思うかもしれませんが，楽しい人ばかりで熱心に勉強に取り組むことができます。少しでも興味がある人はぜひ田村研究室にきてみて下さい。何事にも総合科学部のメリットを活かし，広い世界を持って下さい。目先の楽しみばかりにとらわれず，たまには将来の事も考えて勉強しておいた方が良かったと思う日がこない様に学生生活を楽しみましょう。

卒業論文題目紹介

学生氏名	（指導教官）	研究題目
人間文化コース		
石村　洋子	（西村　雅樹）	世紀末の都市文化と色彩－『イエロー・ブック』に見る19世紀末－
榎本　真代	（西村　雅樹）	オーケストラ活動とコンサートホールの関係
鹿野　互亀	（西村　雅樹）	ナチスとシンボル
鴨谷　拓成	（杉野健太郎）	筒井康隆作品におけるマス・メディア批判－『48億の妄想』を中心にして－
河野　奈々	（圀府寺　司）	写真の研究－タルボットによる写真の発明とピクチャレスク趣味の関わりについて－
阪本　直子	（斎藤　忠資）	臨死体験事例による集団的無意識の証明
友安　直美	（吉田　純子）	「小さな家」の女性三代を追って
中村　憲一	（杉野健太郎）	『夏の花』における原爆表象
永一　直人	（水島　裕雅）	夏姫をめぐる物語の比較－葛藤する歴史的人物像の創造－
永渕　孔二	（杉野健太郎）	カフカ『変身』－ザムザ家とカフカ家－
藤枝　貴志	（古東　哲明）	交わり論－ヤスパースの哲学に即して－
松井　和雄	（佐藤　正樹）	近世ヨーロッパにおける老年と老人－「グリム昔話」を手がかりにして－
八木　茂樹	（古東　哲明）	『北欧神話の世界観』
矢野真知子	（吉田　純子）	"Simplicity" and The Attitude Towards Children in L. Frank Baum's Mother Goose in Prose（L.Frank Baum の Mother Goose in Prose における "Simplicity" と子ども観）
米本　典子	（水島　裕雅）	翻訳を通してみる日本のハムレットのイメージ
地域文化コース		
諫山　知広	（髙谷　紀夫）	食文化における一考察－健康食品ブームについて－
石原　一人	（長田　浩彰）	イギリス「生活革命」と茶
植田　朱美	（佐野眞理子）	日本の教育システムにおける「マイノリティ」
川本　京子	（佐野眞理子）	ディズニーにみるアメリカ－ディズニーの世界－その文化的意義－
佐々木　彩	（木幡　藤子）	『ヴォルスンガサガ』と『ニーベルングの指環』－ワーグナーの解釈をめぐって－
真田　和幸	（嶋　陸奥彦）	アスレティシズム　－フットボールの近代化との関連
清水　鈴代	（吉村慎太郎）	「ＳＡＤＣＣに見る南部アフリカ問題の諸相」
髙崎　雅宏	（佐竹　昭）	日本古代貢進物付礼と税制
竹内　真紀	（岡本　勝）	アメリカの親子～子どもの監護権をめぐって
多田　義弘	（米田　巌）	イギリス人のレジャー活動における旅行の特色
椿原　郁	（髙谷　紀夫）	たたり・つき考～日本におけるたたり・つきの社会的意味とその治療の役割～
鶴岡　賢直	（佐野眞理子）	アイヌ民族と日本政府の対アイヌ政策
羽生　信彦	（嶋　陸奥彦）	「韓国企業の人と文化」
原　貴憲	（髙谷　紀夫）	ペルー日系社会をめぐって－"フジモリ"を通じて見る日本人の日系人観－
平尾　耕治	（吉村慎太郎）	「パレスチナ問題の成立への英バルフォア宣言の歴史的意義をめぐって」
古川　浩行	（鹿野　忠生）	アメリカの対ソ政策の変容
堀　英太郎	（嶋　陸奥彦）	「スポーツと文化」－サッカー・フーリガニズムの実態－
森岡　真弓	（佐野眞理子）	日系アメリカ人のエスニック・アイデンティティ
山本　幸宏	（小川　國治）	長州藩運送米の研究
石原　幹夫	（楠瀬　正明）	満州日本人移民と抗日運動
江藤　周子	（髙谷　紀夫）	医療と人間－終末期医療の現状から－
長坂　鈴	（古東　哲明）	ミハイル・バフチンのカーニバルについて－民衆文化から文学へ－
安本　桂子	（柳澤　浩哉）	「山田詠美論」
山崎　香澄	（鹿野　忠生）	米国移民政策の変遷　副題 1924年移民法までの排日運動
山下　宗則	（藤井　守）	改革開放政策下における中国自動車産業
社会科学コース		
一谷　晃平	（鯵坂　学）	住民運動の形成と展開に関する一考察
村島　弘樹	（富井　利安）	環境基本法と環境基本計画に関する考察
安保　雅己	（伊藤　護也）	「ゴルフ場開発をめぐる諸問題の考察－東広島・恋文字ゴルフ場開発を素材として－」
荒巻　幸子	（水島　朝穂）	「日本における市民公益活動に対する社会的支援－アメリカの社会と比較して」
池田　育浩	（岩田　賢司）	欧州議会とＥＵ統合～欧州議会の権限強化とＥＵ統合の関係～
池田佐知子	（岩田　賢司）	日米繊維紛争における経済の政治化～紛争激化の要因を探る～
石田　宜子	（舟橋　喜恵）	原爆慰霊碑の碑文論争をめぐって

伊藤　健司	（浜渦　哲雄）	石油産業の構造変化と企業の対応
井上　士郎	（岩田　賢司）	日本のＯＥＣＤ加盟外交～政策決定過程からみる特徴～
岩田　英昭	（富井　利安）	製造物責任法の制定とその課題
岩元まゆみ	（石倉　康次）	1970年以降の少年非行に関する考察
海老塚奏子	（鯵坂　学）	「日本的経営」の変化要因と労働者の職場生活
大野奈津子	（石倉　康次）	障害者の自立・社会参加の前提条件と参加の現実～障害の多様性と障害者の経済的階層制の視点から～
雲谷恵美子	（水島　朝穂）	代用監獄制度の問題及び国内外の議論－人権後進国・日本の現状－
清水　明美	（伊藤　護也）	「社会活動を通じての環境教育の評価　－香川県の「どんぐり銀行」を事例として－」
武長　綾子	（浜渦　哲雄）	ケニアの教育の到達点と問題点－教育政策と現実－
遠山　香澄	（石倉　康次）	企業が参加する福祉サービスの実態－補助器具の開発と供給を通して－
楢原　聡子	（鯵坂　学）	「外国人労働者の定住化に関する一考察～広島県安芸郡海田町の日系ブラジル人を事例として」
西田千恵子	（富井　利安）	「水質環境と水源二法」水道水源二法の役割について
西田　美和	（冨岡　庄一）	環日本海経済圏におけるロシア極東開発～ロシア極東地域における現状と日本との関わりを中心に～
張木　英里	（山崎　修嗣）	バブル経済崩壊後の自動車産業界における企業間関係の変化について
平田　雄二	（森　利一）	日米開戦の決定と東條英機
弘中知恵子	（鯵坂　学）	まちづくりにおける住民参加の可能性－都市におけるより良い生活環境を求めて
前田久美子	（水島　朝穂）	定住外国人の地方参政権
山住　恭子	（奥村　和久）	「円高と日本の海外直接投資の進展－産業構造空洞化との関連で－」
四角　寿子	（田村　和之）	「自治体における文化行政の現状と課題」
米田　憲之	（森　利一）	特に日本陸海軍から見る日中戦争からアジア太平洋戦争への移行に関する一考察
若山　泰行	（田村　和之）	情報公開における個人情報の取り扱い
渡辺　茂隆	（田村　和之）	特定郵便局制度の変遷
渡辺　志保	（浜渦　哲雄）	「インド経済自由化～現状とその成果～」
外国語コース		
江村真貴子	（内藤　陽哉）	幽閉されたホラー映画－「ステレオタイプ」と「検閲」をめぐって－
桑原　愛	（シュライナー，クリストファー）	Comedy and Romantic Individualism as Cultural Politics : A Study of the Films and Associated Literature of Robin Williams（文化における政治としてのコメディとロマン的主体性：ロビン・ウィリアムズの映画と付随する文献の研究）
石川　透	（吉田　光演）	Der Vergleich zwischen der deutschen und der japanischen Topikalisierung（話題化（Topikalisierung）の日独比較）
石原　高陽	（山崎　直樹）	漢字の検索方法について
石本　幸子	（井上　和子）	A Study on Semantic distinctions of Composite Predicates（複合述部の持つ意味的特徴に関する研究）
泉　糸織	（鎌田　勇）	Analysis of the Japanese expression Iidesu:The unexpressed meaning（日本語表現「いいです」の分析－言外の意味－）
伊藤　陽子	（シュライナー，クリストファー）	Jacqueline Kennedy Onassis As A Cultural Icon : The Construction Of An Icon And Its Influence On American Culture And Criticism（文化的イコンとしてのジャクリーン・ケネディ・オナシス：イコンの構成及びアメリカ文化と評論への影響）
大島　昌子	（丹治　信義）	Über Erich Kostners Jugendliteratur（エーリヒ・ケストナーの児童文学について）
小篠　直美	（岡崎　忠弘）	Zur Symbolik der Wassergeister in deutschen Sagen（ドイツの伝説における水の精の象徴性について）
小田島倫子	（大山　茂之）	The Gentleman Education at the Japanese Imperial Naval Academy（帝国海軍兵学校におけるジェントルマン教育）
上村　雅子	（スケアー，ピーター　マッコール）	The American English Idiom from Structural and Semantic perspectives（イディオム：構造的，意味的観点からの考察）
喜々津祐子	（大山　茂之）	THE TRANSFORMATION OF HEATHCLIFF（ヒースクリフの変身）
久志岡尚子	（コジマ・ルー）	Zur Übersetzung deutscher Abtönungspartikeln ins Japanische（ドイツ語の心態詞の日本語への翻訳をさぐる）
佐々木　洋	（谷本　秀康）	The Analysis of The Differences Between Japanese Collectivism And American Individualism In Japanese and English Proverbs（日本語と英語の諺にみる日米の集団主義と個人主義の相違の分析）
下岡　史明	（竹島　俊之）	フランツ・カフカの「変身」の研究

髙島　裕臣（山田　　純）　Lexical Decision and Naming Times of English Loanwords and Nonloans for Japanese Speakers（英語借用語の語彙判定時間と音読潜時）
津野地由香（内藤　陽哉）　フランスのことわざに現れた動物のイメージについて（日本との比較から考える）
長井美秀子（要田　圭治）　On Graham Greene's The Power and the Glory : in its relation to Shusaku Endo's Silence（グレアム　グリーンの「権力と栄光」について，遠藤周作の「沈黙」との比較）
西村　有里（スケアー，ピーター　マッコール）　The Language Forms that Humans and Animals Make, in Japanese and English（日本語と英語における擬音語）
林　さとみ（要田　圭治）　A study of Jane Austen's Pride and Prejudice :The Heroine in the Picturesque Park（ジェイン　オースティンの自負と偏見について：ピクチャレスク庭園の中のヒロイン）
桧高　芳子（小林ひろ江）　A STUDY OF JAPANESE COLLEGE STUDENTS' USE OF COMMUNICATION STRATEGIES IN TELEPHONE CONVERSATION : REGULAR-STATUS VS RETURNEE-STATUS（電話を用いた会話における日本人大学生のコミュニケーション　ストラテジー使用に関する研究：一般学生と帰国子女学生の比較）
眞弓　祥子（伊藤　詔子）　A Study of Martin Luther King, Jr. : Focusing on His Speech（マーティン・ルサー・キング２世研究－そのスピーチを中心に－）
三井　優美（岩倉　國浩）　A Contrastive Study of Tense in English and Japanese（英語と日本語の時制の対照研究）
宮﨑めぐみ（内藤　陽哉）　フランス人の結婚観・家族観について－個人主義の果たす役割－
宮本　成侍（谷本　秀康）　The gap between the images of the Japanese in American films and the Japanese as they have been.（アメリカ映画にみる日本人のイメージと実像）
森田　　恵（小野　光代）　Jugendsprache in Deutschland ～ Eine Betrachtung von Personenbezeichnuugen ～（ドイツの若者ことば～人を表す語についての一考察～）
森本　京子（スケアー，ピーター　マッコール）　The Spoken American Joke（アメリカンジョークに関する研究）
山口　幸信（岩倉　國浩）　A Syntactic Study of English Verbs and Their Complements（英語動詞とその補部に関する統語的研究）
山下　昌代（嶋屋　節子）　シュタイナー教育における児童期の教育方法について

数理情報科学コース

松岡　武史（中原　早生）　関数型言語 Scheme による Querying System の実現
松本　啓夫（水上　孝一）　最適レギュレーターと多層神経回路を統合する非線形レギュレーターの設計
青木　　真（正法地孝雄）　健常日本人の成長の特徴づけ
石山奈緒子（中山　裕道）　グラフの交叉点・種数に関する位相幾何学的研究
加藤　健史（山縣　敬一）　取引履歴公開下での最適取引戦略
末友　　亨（山縣　敬一）　制約充足問題の性質と代用を用いた解法
中川　　昇（西井　龍映）　ベイズ型モデルによるカラー画像のスムージング
野間　崇暢（桒田　正秀）　均斉配列の研究
橋塚　佳子（西井　龍映）　２分木による多変量データの判別分析
船越　裕介（間瀬　　茂）　空間点過程モデルとその応用
宮﨑　龍二（原田　耕一）　曲面最適近似のための逐次的適応型パッチ生成法
柳井　達也（桒田　正秀）　釣合い型一部実施２ｍ要因計画の研究
横井　志教（新井　敏康）　命題論理のコンパクト性定理
吉谷　仁志（中山　裕道）　シャルコフスキーの定理による位相力学的性質

物質生命科学コース

志村　　勉（清水　典明）　細胞外微小核の存在の立証とその精製
山口　浩毅（宗岡洋二郎）　アフリカツメガエル卵母細胞を発現系としたK^+チャネルの機能解析
坂口　公康（安藤　正昭）　ウナギの心房の拍動に及ぼす浸透圧の影響
池田　一貴（藤井　博信）　遊星型ボールミルで作製した Mg 系複合材料の水素化特性
今井　　正（小南　思郎）　チトクロムＰ-450βによるアルドステロン合成反応の中間体
江口　　司（山下　和男）　光機能性分子固体のエネルギー構造
大茂　信博（渡邊　一雄）　接着非依存性培養下におけるニワトリ胚強膜細胞の増殖と分化の調節
尾田　達史（宇田川眞行）　$R_{2-x}CexCuO_4$ (R＝Eu, Gd) の赤外吸収とラマン散乱
越智　俊憲（田村剛三郎）　液体セレンのレーザー励起過度吸収スペクトルの測定
勝山　敏司（河原　　明）　アフリカツメガエル血清蛋白質遺伝子群の発現調節についての研究
田中　　歩（武森　重樹）　ラット小脳の一酸化窒素合成酵素の精製とその反応機構
西田　泰治（星野　公三）　液体セレンの構造のシミュレーション
橋本　信弘（赤堀　興造）　光合成光化学系Ⅱ複合体Ｈ及びＬタンパク質の簡便で迅速な精製法

三浦　　哲（手島　圭三）　光合成光化学Ⅱ構成蛋白質群中の色素組成
山下　真弦（筒井　和義）　ウズラ直腸からのニューロテンシン関連ペプチドの単離

自然環境研究コース

市村　　力（成定　　薫）　科学と自然の意味づけの関係をめぐって
近藤　博嗣（福岡　義隆）　黒瀬川流域の霧の発生について
井山　慶信（早瀬　光司）　「人間社会システムにおける業務・生活系の環境監査と，集積データとの比較考察に関する研究」－事務系オフィスをモデル系として－
打明　英之（海堀　正博）　まさ土分布地域における流動型崩壊の発生メカニズムに関する基礎的研究
大竹　邦暁（根平　邦人）　太田川上流域の森林植生の変遷
河井　　裕（佐久川　弘）　海水中の過酸化水素並びに有機過酸化物の測定とその挙動に関する研究
木本　秋津（海堀　正博）　土砂移動制御に対する地上抵抗物の効果に関する基礎的研究
小林　隆幸（設楽　惣助）　生態系におけるN_2Oの発生と消失に関する微生物学的研究
佐伯なおみ（浅井　冨雄）　中国地方における降水の日変化の地域特性について
榊原　恵子（櫻井　直樹）　ニワトリ胚における線維芽細胞増殖因子５(FGF5) の探索
白川　勝信（根平　邦人）　中間湿原の陸化抑制に関する植物社会学的研究
新門美保子（福岡　正人）　ＳＥＭ－ＥＤＸによる鉱物の定量分析法の検討
末次　清晃（櫻井　直樹）　高等植物のセルロース合成酵素についての研究
錫木圭一郎（堀越　孝雄）　「公共空間における散乱ごみの計測とその方法論に関する研究－スペイン広場を系として－」
髙山　　勉（中根　周歩）　松枯れ跡地における土壌炭素循環の研究－隣接のマツ林との比較－
武田　展明（浅井　冨雄）　冬季日本海に発現する小低気圧に関する統計的研究
玉置　　仁（設楽　惣助）　人間活動に関わる三種の系での環境監査と方法論に関する研究－その相互比較と考察－
智和　正明（佐久川　弘）　極楽寺山における酸性降下物の測定
檜山　晴子（中越　信和）　山火事がＶＡ菌根菌胞子に与える影響と再生した植物のＶＡ菌根
丸本　幸治（藤原祺多夫）　ＩＣＰ－ＭＳによる降水中の重金属のモニタリングと鉛安定同位体比の測定
森元俊一朗（中根　周歩）　岡山県の地域構造
山本　昌弘（福岡　義隆）　環境変化と年輪生長の関係について
吉田　宣幸（早瀬　光司）　大学祭における食品と容器に着目した環境監査の実施と方法論に関する研究
吉森　照通（福岡　正人）　天然と人間社会における石油の流れの定量化

生体行動科学コース

穴田　　貴（坂田　省吾）　ラットのサーカディアンリズムに及ぼす餌のコストの影響
佐藤　未央（坂田　省吾）　胎生期のアルコールが生後のラットの空間学習に及ぼす影響
平谷　彰久（調枝　孝治）　バリスティックタイミング課題における要約フィードバックの情報処理形式
安部　暁子（堀　　忠雄）　入眠期における事象関連電位～その頭皮上空間分布特徴について～
有馬　　潤（浦　　光博）　社会に影響を及ぼす人物が持つ魅力の検討
石田　光央（黒川　正流）　就業態度と職場リーダー・イメージの形成過程に関する縦断的研究
伊藤　志穂（調枝　孝治）　フィードバック制御とフィードフォワード制御の特性からみた心理的ストレス反応
伊藤　伸夫（内山　敬康）　セントロメアを持たないＤＭ染色体の間期核内での動態
北山　洋介（新畑　茂充）　休憩時間の取り方の違いが疲労におよぼす影響についての研究
髙野　優子（浦　　光博）　対人関係が健康に及ぼす影響についての検討－その変容過程をめぐって－
武内　宏介（生和　秀敏）　RISK TAKING BEHAVIOR 規定要因についての研究
田中　正己（新畑　茂充）　筋持久力運動後のストレッチング，マッサージが疲労回復に及ぼす効果について
寺内　英詞（生和　秀敏）　表情認知に及ぼす表情刺激の先行呈示効果の検討
豊田　庄吾（黒川　正流）　心理的貸借感の構造と贈答行動の研究
豊田　祐一（菊地　邦雄）　Collision 法と Summation 法による脊髄運動細胞の中枢性並びに末梢性支配様式の検討
西亀　説子（坂田　省吾）　アルコールがラットの時間知覚に及ぼす影響
根本　聡子（岩永　　誠）　ワークストレスに関する実験的研究－自由裁量度と locus of control の検討
羽生　　宏（浦　　光博）　非合理的現象への態度と道徳性との関連の分析
道田奈々江（堀　　忠雄）　入眠時幻覚と注意機構～事象関連電位を指標として～
本山　順子（上領　達之）　線虫ペルオキシソームの形成に必須な遺伝子のクローニングと解析
山本麻衣子（岩永　　誠）　気分状態依存効果に関する実験的研究－感情ネットワーク間の抑制効果の検討－
渡邊真規子（林　　光緒）　「Post-lunch dip」に相当する時刻にとる仮眠の回復効果

お初にお目にかかります

新任教官紹介

足立　匡義（数理情報科学コース助手）

昨年11月1日に，総合科学部数理情報科学コースの助手として着任しました足立匡義です。今回初めて，教わる立場から教える立場に変わり，最初のうちは自分のペースがつかめなかったのですが，着任後半年以上経った今では，新しい環境にも慣れ，少しは落ち着いて仕事ができるようになった，と感じております。

私の研究分野は，数理物理学に現れる偏微分方程式の，関数解析的手法を用いた解析であり，特に，量子力学に現れるシュレディンガー方程式を取り扱い，粒子の衝突理論等を含んだ多体系の散乱理論を数学的に研究することを専門としております。この分野は，近年大きな進展があり，更なる進展にも一役買えればいいな，と思っております。

我々の仕事は，研究も勿論重要ですが，学生に対する教育が大きな位置を占めていると思います。まだ，半年程度の経験では自分なりの教育方針など固められるはずもありませんが，そんな偉そうなものを固めずとも，自分の信念に基づいて，徐々に方向性を打ち出して行ければ，と思っております。自分の研究の方も頑張ります。

折茂　慎一（物質生命科学コース助手）

専門は，材料科学（特に金属と水素との反応系）です。私は総合科学部出身で，学部時代は部活に明け暮れる毎日を過ごしていました。材料の研究に対する魅力を感じ始めたのは，修士課程修了まぎわだったように思います。その後の，約3年間の民間研究所での研究生活は，大学とは違った研究の切り口に接することができ，また同時に一般社会の仕組みやルールに関してもその一端を体感することができたので，私にとって必須の人生経験でした。博士過程への復学後，学術振興会特別研究員を経て昨年12月に現職に着任しました。民間研究所にはなかった自由度を得ることができましたので，大学・国公立研究所・企業問わず多くの研究者との多面的な研究交流をしてゆきたいと考えています。よろしくお願いいたします。

中坂恵美子（社会科学コース講師）

2月1日付で着任いたしました。学部を名古屋大学で学び，同大学院法学研究科博士課程を修了し，今回の広島大学が初の赴任先です。国際法が専門ですが，修士課程の時にイギリスのシェフィールド大学に留学したとき以来，ヨーロッパ統合が人権に与える影響に興味を持ち，目下，そちらの研究を中心に行っています。しかし，せっかくヒロシマの地に来たのですから，今後，どん欲にいろいろな問題に取り組んでいきたいと思っております。若輩ですが，どうぞよろしくお願いいたします。

先日，夫と長女（3歳）の立ち会いの下で，長男を出産いたしました。というわけで，今は仕事を離れるとこの二人の子供たちに振り回されており，なかなか趣味の時間は持てず，仕事も育児も体力が肝心と夜中にダンベル体操をするのが関の山という日々です。しかし，たまには息抜きに地元の銘酒も飲みたいもの，どうかどなたかおつき合い下さい。

吉川　友章（自然環境研究コース教授）

4月1日づけで，つくば研究学園都市の気象研究所から転任してきました。専門は大気中のガスおよび粒子の移流，拡散で，早い話が大気汚染が晴れたときや雨雪の時にどのように拡がって，どこへ落ちるかということです。昭和48～53年には，設立直後の環境庁に出向して，光化学スモッグの解明と予測システムの開発，昭和54～平成7年には気象研究所で，原子力の安全対策や酸性雨対策の一貫として，大気中粒子の雨・雪による沈着の解明とモデル化を担当しました。これらの一部は現用に使われています。

興味があれば，どこへでも行き，何でもやる性格で，モスクワで国際会議中にチェルノブイリ原発を見せてくれるといえば，事故後2年に満たない状況で原発の建屋内まで潜入したり，大気汚染や放射能の地球規模拡散を監視するとして，ヒマラヤの6000m級の山頂に気象・環境測定器を取り付けに行ったりして，あちこちの国からにらまれています。15年ほど前から国の原子力安全委員会の審査委員を任命され，現在も続いており，原爆影響再評価委員会では原爆放射能の飛散を数値計算するなど，心身ともに放射能漬けの感がします。最近はいじめられ役を避けて，「粒子と雪のかかわりを逆利用して，冬の日本海岸の降雪域を調節する構想」をぶちあげて，関係者を煙にまいています。人の役にたち，環境を救うという大義のもとに面白いことをしましょう。皆さんも参画してください。

オートリー，ケネス　M.（外国語コース助教授）

Although I am originally from the state of Alabama, my home is currently in Columbia, South Carolina, United States. I teach writing and literature at Francis Marion University. I am on leave from my job there in order to Hiroshima University for a year. In the past I have taught on various levels, including middle school and high school. For the past 15 years, I have been paticularly interested in teaching writing and rhetoric on the university level. At Francis Marion, I teach primarily Advanced Writing and petory Workshop classes. My reseach interests include journals and notebooks as pedagogy and literature, student attitudes about (and experience with) language acquisition, contemporary non-fiction, and poetic theory.

ヒギンズ，ジャネット　M. D.（外国語コース助教授）

I am a British Professor with degrees in Geography, Social Science, Russian Studies, TEFL and Applied Linguistics. Joining the Faculty of Intergrated Arts and Sciences seems appropriate to my background.

My career path has provided me with many opportunities to work overseas. As a teacher trainer and teacher of EFL, for instance, I have also worked in Europe, Hong kong, Malaysia, and Oman.

My research interests include examining the listening strategies of second language learners, and exploring conversations from a structual, pragmatic and phonological perspective. I shall continue my TEFL teacher training work and I intend to develop my interest in L2 curriculum issues.

浅野　敏久（地域文化コース講師）

4月に着任しました。専門は地理学で地域計画と住民運動を研究テーマの2本柱としています。出身は東京で赴任前は三菱総合研究所という民間シンクタンクに勤務し，地域計画づくりのコンサルティングをしていました。草の根の地域づくり活動に関心があり，研究のため，また個人的な関心のため，当地における人的ネットワークを広げようと思っています。これまでは（専門は文系なのですが），趣味として動植物の調査や一般の人を集めての観察会などを行ってきました。今後，これらについて当地の活動に参加していくとともに，範囲を広げていわゆる「まちづくり」活動にも関わっていければと思います。授業等を通じて自分たちが暮らす地域社会に関心を持ち，自分なりに考え，行動する人の輪を広げていければと思います。偉そうに書いていますが，全く初めての経験なので全てが手探り，試行錯誤の状態です。要領を得ない事が多々ありますがよろしくお願いします。

大平　まり（数理情報科学コース講師）

琉球大学から，転任して参りました。去年までは研究室から望む東シナ海が目を休ませてくれました。広島大学にきてからは周りの山なみが美しいのが嬉しいです。

天気の良い日は西条の町中から大学まで自転車で通っています。途中坂のきついところもありますが，実は私のはモーター付きなので楽なのです。年寄りだの，邪道だの，非難の声は絶えませんが。

このごろ（7月上旬）は鏡山あたりの，合歓の木の花がうつくしいですね。ベビーピンクで心やすまりますので，自転車をとめてしばし見とれてしまうのです。「合歓の木合歓の木，やさしい合歓の木…」でしたっけ？
そんな歌をおもいだしながら。

ヴァンシンテヤン，カトリーヌ　ディオ（外国語コース講師）

私はベルギー出身ですが，大学に入学してからは，ずっとパリで暮らしてきました。フランス国立東洋言語文化研究所（通称ラング・ゾ）で日本語学科を卒業しました。本年4月広島に来る前，慶応大学でフランス語会話を教えておりました。これは来日して初めての，積極的に，日本人の学生を教える経験でした。

これからは，仏語の音声学やコミュニケーションの民族分類などの分野で研究しながら，クラスを実験室として使い，外国語修得の教育学の新しいあり方を考えて行きたいと思っております。

私の家族ですが，主人は一生懸命に日本と中国の書道を研究しております。1歳の息子は保育所に通っており，間もなく母親より上手な広島弁を話し，私の日本語の先生になりそうです。

嶋田　洋徳（生体行動科学コース助手）

4月1日付けで着任いたしました。専門は行動臨床心理学です。心理的なストレスと環境への適応に関する諸問題を，主として子どもや青少年を対象として研究しております。

この3月までは早稲田大学人間科学部（埼玉県の所沢キャンパス）におりました。そこも総合科学部と同じように理系文系のさまざまなご専門の先生方が同じ学部の中に在籍されております。「地域に開かれた大学」というところも，「キャンパスが山に囲まれている」のも同じような環境です。臨床心理学では，「いろいろな物の見方」ができることが非常に重要です。そのような点では，その道のプロフェッショナルがたくさんいらっしゃる総合科学部は非常に恵まれた環境にあると思います。

広島の地は私自身まったく初めてなので，これから心機一転頑張っていくつもりです。どうぞよろしくお願いいたします。

読者からの手紙

林　七雄（自然環境研究コース）

『飛翔』という名は初代今堀学部長が名づけられたと記憶しております。先生の生涯の念願でありました，総合科学部からノーベル賞受賞者を，のキャッチフレーズから，教官も学生も奮起して飛躍してもらいたいという意味だったのでしょうか。当時，私にはあまり馴染めない名称ではありましたが，現在では違和感の無いものとなりました。それは，我々総合科学部の構成員が暗示にかけられ，飛翔したか，あるいは私が昆虫の蛹から成虫への飛翔を観察する研究をしていることから来る慣れかも知れません。

西条は何事につけても刺激に乏しい所ですから，『飛翔』で触発されることを願っています。最近の『飛翔』は内容が充実して盛り沢山なくらいですが，今後とも続けて充実して欲しい項目を要約すると，(1)読者と編集者との対話，(2)教育・研究への真摯な提言，(3)総科ＯＢや社会人との交流，(4)仲間づくり，などであります。

本誌50号での田淵氏と編集者の対話は本誌の活性化を促進するでしょう。また，同号の鎌田氏の『よりよい授業を目指して』等の提言，それらに関する著作出版物等の紹介も合わせてお願いしたい。総科のＯＢ（卒業生，教職員）の声など貴重です。西条では，学生，教職員を問わず，教育・研究，文芸・趣味のサークル活動による連帯が望ましく，これらの紹介も必要となるでしょう。

松本　真次（山口県立水産高等学校教諭・平成６年度外国語コース卒業）

５月の末に，大学時代足を向けて寝られないほど大変お世話になった安仁屋先生より電話がありました。「松本君，すまないが飛翔の中の読者からというところを書いてくれないか。」（飛翔？読者から？やばいゾ，不真面目読者の代表のようなこの私に何故…？）「あのう…。」「いいかな？」「…わかりました。」というわけで，今原稿用紙に向かっているところです。とるに足らないいちＯＢの独り言と思っていただければ幸いです。

さて，あらためて飛翔50号を手にページをめくってみますと，懐かしい顔，懐かしい声がそこかしこにあり，自分自身の大学生活までもが思い出されてきます。またそれとともに，誌面に漂う学究的な匂いに，学ぶ者としての姿勢，あり方を垣間見る事ができました。

私は現任校に来ましてから，常に「学ぶとは何か」という命題にぶつかっています。生徒は「何で使いもしない英語を勉強しなければならないのか」としばしば真剣に問いかけてくるのです。学ぶとは必要から生まれてくる本能なんだ，学ぶとは人間が生きて行くための力なんだと訴えてみても，単語の宿題を出してみれば，「何でこんな勉強をせんにゃあいけんのん」と言ってくる，そんな毎日の繰り返しです。

大学時代，私はあまり勉強をしませんでした（よくもまあ，人様に物を教えているというところです）。社会に出て今初めて，もっと勉強しておけばよかったと思っています（もちろん，これからでも勉強しますが…）。とりとめのない話を書きましたが後輩の皆さんに一言，どうか学びたい時に学べる喜びを胸に，充実した学生生活を送って下さい。ガンバレ！広大生!!総科生!!

上代　裕久（学生係）

実は，事務棟１階の保管庫には飛翔のバックナンバーが眠っています。

記念すべき飛翔第１号は，1975年３月15日に発行されました。“創刊にあたって”の冒頭には，－人間が希望に生きられるのは，とめどもない精神の飛翔感によってである。－とうたわれています。（余談ですが，「飛翔」刊行前に１号だけ「総合科学」という名の学部報がありました。ご存知の方いらっしゃいますか。）

ところで，飛翔の20年の変遷をみるのはとても興味深いものがあります。

創刊当時の飛翔は，エッセイ（というより，かなり読み応えのある論文という印象のものもあります。），書評が中心の紙面構成になっています。はじめて特集が登場するのが1978年３月20日発行の第８号で，タイトルは“49生（１期生）にきく”。初めて卒業生を送り出す年ですね。第10号の特集は，“飛翔初登場－総合科学部の事務組織－”。知っている人たちがたくさん登場していて，非常におもしろいです。表紙がカラーになるのは1984年３月24日発行の第26号からです。ぼくが小学校を卒業した年だ，と個人的な感慨に浸ってしまいましたが，20年間に紙面を賑わした話題はまさに多種多様，とても短くまとめることなどできません。

これからも飛翔は様々な話題をのせて続いていくことと思います。次の20年はどんな20年でしょうか。楽しみにしています。

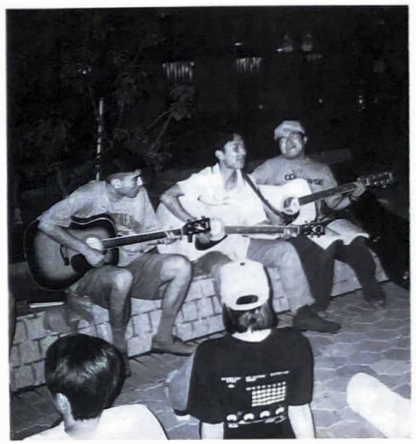
福井　大輔（人間文化４年）

「飛翔」編集部のみなさん，こんにちは。いつも楽しく読ませて頂いております。でも，総科生の中で読んでいる人はきっと少ないのではないかと思います。もったいないですね。いい記事がたくさん載っているのに。

留学生の方の声をたくさん聞きたいです。彼らが日本にやってきてどんな生活をしているのか，広大の学生を見て何を感じているのか知りたいです。今度特集組んで欲しいです。

教官の「総合科学部」に対する熱い想いが知りたいです。授業を受けているだけでは，彼らが総科の事をどのように思っているのか，これからどう変えていきたいと考えているのか何も伝わって来ません。授業云々，学生への不満等の細かい部分だけでなくて総合科学部全体としてどう考えているのかが知りたいです。特集して下さい。

P.S. 前の号のうしろに僕の写真が載っていました。ちょっとうれしかったです。



『飛翔』の誌面に対するご意見・ご希望・ご苦情，または卒業生から学生への一言など，何でもお寄せ下さい。字数は400～600字程度でお願いします。（宛先および編集室の場所は最後のページをご参照下さい。）

編集後記

■**富樫　一巳**（**編集長**，自然環境研究コース助教授）

まちづくりの特集を組みたいと学生編集長の渡辺君が言う。大学で生活をする人達にとって大事な問題だが，またかと内心思った。しかし，話を聞くと今までとどうも視点が違って面白い。その関係で市役所の秘書課に初めて行った。私には懐かしい雰囲気であった。新しい建物では人間を余り感じないが，時代を感じさせる建物の中はいろいろな傷跡から人間の意志を感じる。吉田秘書課長さん有り難うございました。

武森先生の原稿を読んだ時，学部広報誌としての飛翔にふさわしいのかなと思った。しかし，“対話”というテーマで始めた編集が“創る”に通づることからうまく収まったように思う。如何だろうか。それにしても，学生編集委員には心から感謝したい。

■**安仁屋宗正**（外国語コース助教授）

学生編集委員の照屋君から編集後記を書くよう頼まれた。私のやった仕事と言えば，新任教官，現教官，と総科卒業生に記事の依頼をしただけだ。学生編集委員の仕事量を思うとちょっと悪い気がする。しかし，「学生も編集委員の仕事を通じて何かを学んでいるのだ」と思うとちょっとだけ気が軽くなる。次回の飛翔編集の際にはもっと私に仕事を手伝わせてくれ。記事掲載に関しての協力ありがとう。

●**渡辺　忠信**（**学生編集長**，社会科学コース３年）

仕事の質と量が処理能力を上回り，脳の回線が輻輳してしまった。指導教官や先輩，友人たち，取材先の皆さん，教官編集委員の方々，そして有能な学生編集委員たちに依りかかっていたら，いつの間にか予想を越えた仕上がりになっていた。この場を借りて深くお詫びし，また感謝したい。この号が面白くなかったら，それは私の企画力や構成力が拙劣だっただけだ。責めには全て私が応じるので，容赦なきご意見，ご批判をいただきたい。

私もこれで予備役となる。後続は「少数精鋭」だが，少数すぎて玉砕しそうだ。志願兵（ボランティア）はおらんのん？

●**照屋　　敦**（人間文化コース３年）

前回に引き続き，今回も編集委員はじめ取材先各位の方々に多大な迷惑をお掛けしてしまった事を，まずお詫びしておきたいと思います。品川先生には前回から，（ハンパじゃなく）ご多忙の折，（本当に）面倒な取材に快くご協力いただいた事を特に感謝します。

さて，個人的には今回も無事，自ら飛び降りるでもなく誰を刺すでもなく，取材執筆編集（この後反省）の各過程を終えられた事でほっとしています。次号でとうとう飛翔の歴史も幕を閉じるそうですが（ええっ?!），それまでみんなに見届けてもらいたいものです。

●**磯崎由行**（自然環境研究コース２年）

取材と執筆は他人任せで，打ち込みとレイアウトだけやっていた。目から入った情報を脊髄で反射して手に伝えられるようになるにはもう少しかかりそう。

ああ，文字が体を流れていく・・・。

●**内藤　大義**（社会科学コース２年）

キャンプが終わってやれやれと思った途端飛翔の仕事が始まった。初めは飛翔だけに打ち込める状況だったのだが，あれよあれよと言う間に状況は変化し，飛翔は諸事情の最大公約数の範囲でしか動けなかった。編集長を始め他の編集委員の皆さん，私の分も肩代わりしてくれて本当にありがとう。読者の皆さん，こんな薄い本一冊作るのにも多大な労力と時間がかかっています。ぜひ読んで下さい。

●**石橋　淳也**（１年）

編集後記を書いていても，作業はまだ終わっていません。これからの２，３日が一番忙しいそうです。サークル及び班員のみなさん，義理でいいから読んで下さい。じゅんや。

●**亀井　幹夫**（１年）

飛翔編集室にいるといろんな情報に出会える。特にオリキャンがつぶれるかもしれないという情報（嘘ではない）には驚かされた。今後オリキャンがどうなるのかについては飛翔で取り上げたいと思っている。乞う御期待。

●**松川　祥広**（１年）

一括変換クイズ（もとの言葉はなんでしょう？）

① 著部リンパ腫場
② 真行ける弱村
③ 汲め博

皆様，おつかれさまでした。

●**渡辺　裕士**（１年）

弓道部の練習の忙しい合間に取材とアンケートをしましたが，これだけの仕事で疲れました。もう私は貝になろうと思います。

編集委員（定員23名，実員14名）

教官：富樫一巳（編集長，自然環境研究コース助教授）・安仁屋宗正（外国語コース助教授）・山崎修嗣（社会科学コース助教授）

事務：山本秀康（学生係長）・友田淳子（学生係）

学生：渡邉忠信（学生編集長，社会科学コース３年）・照屋敦（人間文化コース３年）・磯崎由行（自然環境研究コース２年）・内藤大義（社会科学コース２年）・石橋淳也（１年）・亀井幹夫（１年）・川本保子（１年）・中島悦子（１年）・松川祥広（１年）・渡辺裕士（１年）

飛翔伝言板

●おわびと訂正

飛翔50号の記事において，一部表現に間違いがありました。p.9の宗岡先生の記事の中の「ペプチドホルモン」は，オクトパミンのことですので，正確にはアミン類の伝達物質です。加えて，p.32の上領先生のエッセイで，「細分化することで」が「細分化することが」の間違い，「英文学会史」は「英文学会誌」の誤り，またBiochemistryの区切り方が間違っておりました。以上については，完全に学生編集委員の校正上の不注意によるミスであり，宗岡・上領両先生に大変ご迷惑をおかけいたしました。この場を借りて，おわびして訂正いたします。

また，p.3の「中国脅異論」は「中国脅威論」の誤りでした。

以後，このような事がないよう，校正には十分気をつけますので，何卒ご容赦下さい。

●卒業生への通信

卒業2年目以降の方に対しては，希望者にのみ郵送することになりました。引き続き『飛翔』の郵送を希望される卒業生は1996年12月末までに下記の住所宛にハガキでご連絡下さい。

〒739　東広島市鏡山1-7-1　広島大学総合科学部飛翔編集委員会

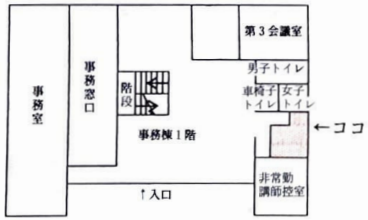
◆『飛翔』は年2回発行，春と秋に配布します。

学生編集委員・原稿募集

飛翔では学生編集委員を募集中。
夏も終わって，総科に愛着を感じ始めた片思いのあなた
活字を通して総科にアプローチしてみませんか？
経験不問。編集のノウハウ（いろは？）を
身につけられます。

写真やイラスト，エッセイ，
記事などもどんどん持ってきて
OK。
総科の片隅に埋もれている意見，
要望に光をあてます。

飛翔編集室は，事務棟1階
入口を入って右。



恐れず，飛び込んで来て下さい。心待ちにしています。

◀MUSEのフリーマーケット
「ユニバザール」

'96 YUKATA MATSURI

PRESENTED BY
JITSUI & So many others

▲7月6日　終日晴れ

◀夏は夜
日の暮れた後も宴は続く・・・。

◀焼きおにぎり
団子
焼きそば

総科08生出店▶
ミラクル太郎